

令和4年度第2回千葉市政策評価部会 議事要旨

- 1 日 時 令和4年12月22日（木）15時30分～17時30分
- 2 場 所 千葉市中央コミュニティセンター 10階 「101会議室」
- 3 参加者 <<委員>>7名
浅野 幸子委員、石丸 美奈委員、岩崎 久美子委員、菊地 端夫委員、
鈴木 雅之委員、林 暁甫委員、松永 哲也委員（五十音順）
<<事務局>>5名
神崎 総合政策局長、堺 総合政策部長、濤岡 政策企画課長、佐藤 課長補佐、
松崎 政策企画課主査
- 4 議 題
(1) 第1回政策評価部会における委員意見の対応の方向性
(2) 政策評価（方向性4及び方向性5）について
(3) その他

5 議事概要

- (1) 第1回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について
第1回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について、事務局から説明を行った。
- (2) 政策評価（方向性4及び方向性5）について
政策評価シート4-1から4-3、5-1から5-3について、事務局から説明を行った。
- (3) その他
今後のスケジュールについて事務局より説明を行った。

6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（1）第1回政策評価部会における委員意見の対応の方向性

（事務局）第1回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について、資料1-1及び資料1-2をもとに説明を行った。

<意見交換>

| | |
|-------|---|
| 菊地部会長 | 参考資料4、シート2-4における「市内に高齢者が生きがいや役割を持ち安心して暮らすことができる割合」に関して、当事者である「介護が必要な方本人または介護が必要な方と同居している世帯」の回答は、肯定の回答も否定の回答も多い結果となっています。一般的に、そのサービスの経験者は満足度が高いと言われますが果たしてそうなのか、もう少し分析が必要かと思いました。 また、この市民アンケートは1年前の12月から1月にかけて実施したものであり、そ |
|-------|---|

の当時の社会状況を少し反映しているところがある印象です。

例えば、「子どもルーム」、「商業施設などのあそび場」についての評価が否定的というのは、当時、商業施設は感染防止のために遊び場を使えなくしていたということがもしかしたらあったかもしれません。そのため、客観指標と市民アンケート調査を実施した時の若干の时期的なずれを考慮した考察が必要ではないかと思いました。

議題（3）政策評価（方向性4及び方向性5）について

（事務局）政策評価（方向性4及び方向性5）について、資料2、3をもとに説明を行った。

<意見交換>

鈴木委員

市民アンケートにおける「自転車が交通ルールを守っていない」という回答が比較的多かったことについて、そもそも市民が自転車のルールを知っているという前提で聞いているのかを伺いたいです。

自転車のルールは複雑で、例えば、自転車は歩道を走ってはいけないと思いがちですが、危険だと思えば歩道を走ることができるような曖昧なルールになっており、本当に評価する人が交通ルールを知っているかどうか、どういう評価がなされたのかという質問です。

もう1点、「自転車レーンなどの走行空間がない」という回答ですが、50kmの整備目標をほぼ達成している状態であるにもかかわらず、否定的な回答結果となっていることについて、おそらく自転車レーン自体が少ないと評価されているのではないかと思います。

そこで、自転車レーンの整備目標50kmとは、千葉市内の道路総延長のおおよそ何%程度なのか教えていただきたいです。

政策企画課長

まず、市民がルールを知らないことについてですが、自転車の購入の際に、ヘルメットの着用や保険の加入に関するルールの周知や、その他、安全のための講習を実施しているところですが、実際に市民の方がどこまで知っているのかは、把握はできておりません。

二つ目の自転車専用レーンについては、専用帯と、自動車と混合して走れるような矢羽と呼ばれているものの2つがあります。自転車レーンといっても、車から見ると危険だという印象を持たれてしまっている可能性はあります。

自転車専用レーンの整備については、これまでと同じように計画に沿って整備を進めていきたいと考えております。

総合政策部長

ルールに関して補足ですが、マナー的な部分が回答の根拠となっているのではないかと考えます。歩行者や運転者から見て危ないと感じたことや経験をもとに、否定的な回答につながった可能性が高いです。

ルールを守っていただきたいというのはもちろんですが、アンケートの方法等については、今後の宿題とさせていただきたいと思います。

松永委員

2点あります。

一つは消防団活動について、今回のアンケートではあまり活動が認知されておらず、どちらかというと否定的な意見が多かったと思います。

それから消防団の定員が充足されていないことへの対応として、報酬単価の引き上げもいいと思いますが、そもそも消防団に今の時代に何を期待するのか、機能の整理をしておいたほうがいいと思っております。

防災における位置付けとしては、消防署がいわゆる公助、消防団は地域の防災活動をするための共助と位置づけられていると思っておりますが、消火活動という面では、消防団が消火で活躍するとはあまり聞かず、そもそも千葉市のような都市部の政令市で、消火のた

| | |
|------|---|
| | <p>めの消防団が本当にどこまで必要なのかとも思っています。</p> <p>残すとするば、消防団はその地域における防災の活動拠点の共助組織として残すものだろうと思っています。</p> <p>市が消防団各分団に期待していることと、消防団が実際にやっていることの意識が本当に合っているのか疑問に思っています。一度、消防団員に対するアンケートや、19年の大雨、台風被害のとき実際の発災時に消防団がどういう役に立ったのかという検証も行うなどによって、消防団がどういう役割をすべきか、それを消防団と市との間で共有するということが必要と思っております。</p> <p>もう1点はバスについて、意外にバス停から離れていて市の中心部にバスで行くには時間かかる人が結構多いということが分かりました。</p> <p>おそらくバス路線が廃止されたところには、コミュニティバスが走っておりますけども、それだけではなく、今まで車で通われた方が高齢化に伴って、場合によっては免許返上して、買い物であるとか通院に困っているケースもあると思います。既存のバス路線に限らず、どういう人が実際に公共交通のアクセシビリティ低下の影響を受けるのかを勘案した上で、コミュニティバスの路線図などは、考えていただければと思います。</p> |
| 浅野委員 | <p>消防団の件について、松永委員の意見に同意します。消防団の活動は報酬の問題だけではどうにもならないと思っています。</p> <p>消防としてはあくまで消火のバックアップとか、応急救護とかに関連した訓練や研修を行うものの、地域に求められている防災活動はもっと複雑で、避難所とか災害ボランティアとか、色々なことに興味を持っていても学ぶ機会が実はあまり無い。そのため、幅広く防災に関心のある人は消防団を選ばないという現実があり、消防団がどこまでやれるのかについて議論しないとまずいと思っています。</p> <p>初期消火は秒単位、分単位のことでもあるので、消火としての消防団も当然重要なところもちろんあると思いますし、消防署から遠い地区の常備消防という面もあります。</p> <p>メリハリをつけながら、消防団の方が多様な学びができるようなバックアップをしないと消防団活動をこれから維持していくことがどんどん厳しくなっていくのかなと感じています。少子化によりそもそも母数が減っていますので、色々工夫しないと厳しいかなと思っています。</p> <p>この政策評価の中で、既存の避難所運営委員会とか自主防災組織などと連携して一緒に共同訓練をやるような場所を今後作ることとかを考えていけるのか、そのあたりも考える必要があるかなと思っています。</p> <p>それから前回言ったことと重なりますが、指標について、避難所運営委員会の結成率とか自主防災組織の結成率について、避難所運営委員会はほぼ100%結成されていますし、自主防災組織結成率や要支援者名簿の提供率を上げていけるかということそんなに簡単ではないと思っています。</p> <p>そこで、質的なところを評価することが大事なような気がします。例えば、避難所運営委員会も全国的に見たら女性委員の参加率が結構高いと思います。また、ライセンス講座についても、いわゆる地域に根差した避難所の委員会、自主防災組織関係の関係者で受講されている方もいれば、幅広い市民の方、世代も含めて結構色々な人が参加してくれています。地域の次期リーダーとして送り込まれてくる人も大事ですし、幅広くに市民の方に関心を持っていただくことも大事ですし、そういう傾向をちゃんと踏まえて講座を実施していくために、質的な面を評価するやり方に変えていくと、色々見方も変わってくると思</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>います。</p> <p>起業廃業について、男女別の統計や、その職種別の統計が欲しいと思いました。</p> <p>世界的に見て、業種・場所によりますがやはり女性の方がより厳しい状況に置かれ本当に深刻な問題になっているところがあるので、今後どういう業態や分野の伸びしろがあるのかないのか、女性と男性で何か差があるのかないのかとか、そういったところをしっかりと見ていくことで、戦略的な政策の評価、実質性の高い評価に繋がっていくかなと思いました。</p> |
| 政策企画課長 | <p>まず、共通する部分としまして消防団に関してのご意見がありました。</p> <p>なかなか人が確保できないということで、報酬や処遇の面だけで解決されるのかというところだと考えておりますし、そもそも消防団に何を期待しているのか、実績として何かあったのかということの分析は必要だと考えておまして、今現状のまま人を確保していくということだけではなく、その辺も分析をした上で、機能として消防団に何を求めるのかということを考えていければと思います。</p> <p>次の実施計画では、機能別の消防団ということで例えば周知、広報活動に特化するなども検討しているところですので、その事業の中で、機能を含めた検討をしていければと思います。</p> <p>もう一つ、自主防災、地域の防災組織の質的な評価についてですが、こちらにつきましても千葉市では女性委員の参加等をかなり進めているところであり、評価をする際に、そのような指標についても次の計画から考えていきたいと思っています。</p> <p>バス交通の部分でコミュニティバスの話も出ましたが、路線を考える上では、生活のなかでどこに行くのかといったデータなども参考に、ニーズを十分に踏まえて考えているところです。今、支え合い交通やデマンド交通というものを地域で検討しておりますので、地域の方のニーズを踏まえた上での取組みを進めていきたいと考えております。</p> <p>もう一つ、起業に関する男女別の統計について、起業数に関する統計がとれているか、所管課において把握しているか、確認が必要ですが、女性の起業のニーズを分析した上で、女性に特化したようなサービス、女性のアドバイザーといった女性の起業を促進するような取組みも進めていきたいと考えております。</p> |
| 岩崎委員 | <p>第一に、パーセンテージで表記されている図表のうち、n数がなく正確に読み取れないものがあるので、表示のないところはチェックしてn数を入れて欲しいと思います。</p> <p>第二に、施策の4について、避難行動要支援者名簿の提供率が未達成とされている一方で、独自に名簿を作成し支援をしている団体があるとの考察がなされております。実質的に避難行動要支援者を把握しているところがあるのであれば、行政と連携することで達成率に算入できるのではないかと感じました。</p> <p>第三に、ESDの教育を推進し「社会に開かれた教育課程」の実践をしていた宮城県気仙沼市の中学校では、学校が地域とつながっていたことから、東日本大震災の時に、生徒たちが避難所の設営に中心的役割を担ったということです。災害時に若い世代が役割を担えるよう、防災の観点からも日頃から地域とつながる教育実践を検討することも一考と思ったところです。</p> <p>最後に、34ページにヘルメット着用の促進とあります。先日ニュースでヘルメット着用が努力義務になったと報道されておりました。このような全国的な動きに対し、千葉市としては今後どのように考えていくのかを教えてくださいたいと思います。</p> |
| 政策企画課長 | <p>表のn数について、ちょっと見づらいところもあつたりしますので、こちらにつきまし</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>てはしっかり対応していきたいと考えております。</p> <p>二つ目の要支援の名簿に関して、こちらについては今の千葉市の基準では拾ってはいないですが、地域独自で有事の際に対応できる体制ができていれば、連携はできるのではないかと考えられますので、所管部署に状況を確認しまして、代替できるものなのか、連携できるものなのか、考えていきたいと思います。</p> <p>三つ目、若い世代の参加について、これまで学校では当然避難訓練などを行っていますけれども、地域での活動に対して助成する取組みがありますので、その中に若い世代にも入ってもらおうといったことも進めていければと考えています。</p> <p>四点目の自転車ヘルメット着用の努力義務化ですが、千葉市の自転車のまちづくり条例では、すでに努力義務化をしています。</p> <p>自転車を購入する際、ヘルメットを合わせて購入してもらおうとか、そのような取組み、普及啓発についても、引き続き進めていきたいと考えております。</p> |
| 石丸委員 | <p>先ほどの4ページの避難行動要支援者名簿の提供率については、他のもので代替が可能かというところもありますが、民生委員の話を聞きますと、やはり個人情報保護の法律によってなかなか提供できないと思われる方もいます。今はそれは整理されてこの支援の方が優先されることになったと思いますが、まだ知られていないために提供に至らないとも聞いております。なぜ提供されないか、十分な情報が提供されているかというあたりを確認いただけたらと思いました。</p> <p>2点目、20ページの市営住宅の整備とバリアフリーについて、千葉市は非常に大規模な団地がたくさんあるというのが特徴ですが、老朽化が進んでいて、私も実習で昔からの白旗団地やあやめ台団地に行きますが、エレベーターがない団地も多いと思っております。</p> <p>バリアフリーといってもエレベーターの設置は難しいとは思っているのですが、上の階にお住まいの方を介護の方が上り下りするなど、それが外出を妨げるということも確かにあると思います。市営住宅の整備や建替の際に、その辺のところまで対応されているかをお聞きしたいと思いました。</p> <p>最後は35ページのところで、ひとモノ情報が伝わる基盤を作ることについて、関連するのはICTかなと思いますが、若干他と比べてグラフや評価が少ないような気がします。千葉市として力を入れていこうとしている分野だと思いましたが、記載はこれだけでしょうか。</p> |
| 政策企画課長 | <p>要支援の名簿につきましてはお話のあった通り、どのような状況で提供できないのか、法制度を知らないのか、どこが課題になっているのかについて所管課に確認したいと考えております。</p> <p>2点目の共同住宅のエレベーターがないということについて、古いものは順次建て替えや廃止をしてきています。また、エレベーターがついていない住宅での外出を支援するようなハードを整備する取組みを行っているので、このような取組みを通じて高齢者の外出支援に取り組んでいければと考えております。</p> <p>ICTに関して、市の取組みとして、情報の流通と考えられる項目を拾って、評価を行ったところですが、今回の政策評価に関しては、ICTに関してこのような分析になってはいますが、今スマートシティとして、例えば高齢者のICTに関する取組みなどを進めていますので、次の計画の評価にあたっては、デジタルデバインド対策のような取組みも出てくると思います。</p> |
| 林委員 | <p>施策の柱5-1、都市の魅力を高めるということに対して、基本的にハードであったり</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>そこにある目的であったりというところの評価基準が多いことが気になりました。</p> <p>というのも今、インターネットで色々なものが買える時代になって、買う、つまり消費をすることにおける都市の競争力がこれからどんどん上がっていくと思います。</p> <p>それは千葉市に限らず東京や各都市においてもですが、世界で初めてのブランドを誘致しましたと言ってもすぐに陳腐化してしまうなか、今、各都市が引っ張って来ようとしているのは、かなり人材の側面が大きいかと思えます。最近の下北沢の開発にもあったように、基本的に何かを消費させに行くというよりも色々な人が作り手になれたり、何かイベントができたとか、まちをもっと使うということが非常に重要視されてきていると思っています。</p> <p>そうなったときにあったらいいなと思ったことですが、まちにどれぐらいの時間滞在するのかということだったり、目的が二つ以上あるのか、寄り道をしますかなど、まちをどのように人が使っているのかということをもう少し探ってみてもいいのかなと思いました。目的ありきのまちに行くということだけではなくて、極端に言ってしまえば何となく行きたくなるような場所のあり方はないのか、消費をする以上の場所としてまちをどう使えるか、まさにどう楽しめるかということを探っていく必要もあるのではと思いました。もしかしたら先ほどの自転車のことについても、もっと駐輪場がたくさんあったらいいということに繋がってくるのかもしれないし、この駅を中心とした都市の開発というのは非常にコアになると思いました。</p> |
| <p>政策企画課長</p> | <p>消費以外の部分については、それぞれの都心部に関して、魅力的な歴史・文化施設や、文化・芸術施設、スポーツ施設があるかということも合わせてアンケートで聞いているところです。消費以外に楽しめるまちということ聞いてはいますが、結果としては魅力的な文化・芸術施設についてはネガティブな評価となっていて、こちらについても課題と捉えております。</p> <p>実際のまちの使われ方についてもうちちょっと深掘りができないのかという話もありましたが、こちらにつきましてはまちのランドデザインをつくる際に使われ方も含め議論しておりまして、色々な方のニーズに応えられるようなまちづくりというのを進めているところです。</p> <p>具体的には、例えば空き地を使った回遊性を高めるようなソフト的な取組みということも行っているところです。</p> <p>市民の消費以外のニーズも含め、使われ方も踏まえたまちづくりを進めていければと考えております。</p> |
| <p>林委員</p> | <p>今の話はとても大切なことかなと思ってまして、何人きたかっていうその数値も大切だと思いますが、例えばマルシェがあったとか、まちの中でアートプロジェクトが行われたとかホームレス支援のための介護が行われたとか、まちがいかに多様的に使われているかというところは、そこに参加する人、もしくは移住していく人も含めて人の移動を促進する要素かなと思うので、ぜひこの政策評価において、その使われ方の点についても見える化していただければと思います。</p> |
| <p>岩崎委員</p> | <p>まちでどう楽しめるか、まちをいかに活用するかという観点では、ロックインジャパンフェスティバルはチャンスと捉えているという書き方がされていますが、12ページの千の葉芸術祭については、チャレンジングなことをされたにもかかわらず、「市民の肯定的な実感に至らなかった」だけの考察では寂しいなと感じます。</p> <p>今、林委員がおっしゃったような、市民以外の外側からの評価やランドデザインとし</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>での評価というものを積極的にしていただくのがいいのではないかと思います。</p> |
| 政策企画課長 | <p>千の葉芸術祭について、こちらは千葉市としてチャレンジングなイベントとして実施したものですので、所管課では次の開催に向けて報告書等を作成しておりますが、こちらにつきましても評価をもう少し充実させていきたいと考えております。</p> |
| 松永委員 | <p>2点意見があります。</p> <p>一つは幕張のまちづくりについて、幕張新都心課がまちづくり将来構想というのを作られました。非常にバラ色の構想に感じました。幕張の住民としては、幕張が黄昏感が強くなってきたことに非常に危機感を持っており、もうちょっと危機感を持った方がいいのではないかと考えています。</p> <p>特に、最近ある上場会社さんが幕張のビルを売却して本社を東京に移すことが発表されたのはショックでした。全体として寂れ感、黄昏感が非常に強くて、将来構想の中に「幕張にここにしかない、新しいものが生まれるまち」と書いてあるけども今それがないから黄昏感が強いと感じるところです。</p> <p>来年の春に新駅幕張豊砂駅ができますが、その機会にあわせて、市も音頭をとっていただいて、まちづくり協議会がここには無いので、幕張を今後どうしたらいいのか考えたほうが良いということをお願いしたいというのが1点です。</p> <p>もう一つはスタートアップについて、今回の市の資料を見ると、スタートアップの企業数を横浜市やさいたま市と比べあまり遜色がないと安心させるような資料になっています。政令市との比較ではそうなるかもしれないですが、県内では明らかにスタートアップが集中するのは柏市の柏の葉になっていて、柏の葉にはもともと東大のベンチャープラザであるとか、国の産総研であるとか、県の東葛テクノプラザであるとか、あと三井不動産さんの産業創造拠点などがあるので、なかなか敵わないところもあります。</p> <p>県内では明らかに千葉市は柏市の後塵を拝していますので、そこは千葉市も県外の政令市と比べてではなく県内でも先導できるように、千葉大などともさらに連携をとりながらスタートアップの増加に力を入れて欲しいなと思います。</p> |
| 総合政策部長 | <p>まず、幕張新都心の将来構想については、まちびらきから30年が経過し当然ご指摘のような課題・懸念があるなかで、我々としては未来に向けて攻めていきたいというところで、このような表現となったものです。</p> <p>これから具体的にどういうまちづくりを展開していくのかというのは、当然幕張にいらっしゃる企業・団体・ステークホルダーの皆さんと一緒に考えていかなければいけないものです。ぜひ地域のステークホルダーとしてもお力添えをお願いしたいと考えています。</p> <p>スタートアップにつきまして、柏が先行しているということは我々も認識しています。千葉市の起業支援について、今後どう強化していけるかというのは次の基本計画の議論の中でしてきたところです。</p> <p>第1次の実施計画では、柏にいきなり追いつくような強力な事業は無いわけですが、今後着実に強化していくというような方向性を持って取り組んでまいります。</p> |
| 浅野委員 | <p>避難行動要支援者名簿に関しては、災害が起こる前は地域の管理役員でも共有できませんが、災害が起こってしまった後であれば、関係者で共有してもいいという仕組みです。名簿をもらって一人でどんな支援ができるのか、住民のリーダーさんや民生委員からすれば重たい名簿であり、特に自治会とか自主防災会などで名簿を預かることがなかなか進まないというのは当然だと思います。</p> <p>一方で、災害が起こってしまった後に避難生活に入った時の安否確認や支援に使うこと</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>もできるので、災害発生直後の避難誘導行動支援だけに特化せずに、避難生活期の活動にも活かせるからぜひ共有いただけないかというかたちで、理解を促していくことが結構大事であると思っています。</p> <p>例えば、杉並区では以前から、指定避難所の金庫の中に名簿を入れておいて、この指定避難所拠点において安否確認などに使うといった例もありますので、そういう活かし方を考えていく必要があると思いました。</p> <p>消防職員さんによる不正利用というのもあったので、個人情報の取り扱いは簡単ではないという前提で、みんなでよりよい方向を議論していくしかないと思っています。</p> |
| 石丸委員 | <p>先ほどの幕張の話について、私も先日企業さんに相談に行くのに幕張を訪れたときに、寂れ感というのを実感したところです。</p> <p>「地域経済を活性化する」の15ページからの分析考察では、結果がまとめて書かれてあるような気がしますが、ここから更にどのように考えていくのかについて、もう少し聞きたいと思いました。</p> |
| 政策企画課長 | <p>幕張につきましては確かにインフラが大分古くなってきているというところあります。新しい構想の中にも記載がありますが、まだポテンシャルが活かしきれていないのではないかとこのところがあります。物理的な距離がある拠点間を複数回ってもらえるように連携した取組みを実施する上では、まちづくりの協議会のようなマネジメント組織が必要だろうという認識を持っています。</p> <p>今後の検討にはなりますが、それぞれの魅力を組み合わせて相乗効果が上げられるような取組みを実施していければと考えております。</p> <p>新しい実証的な取組みを、幕張を舞台に行うことも多く、コンパクトなエリアの中で、大学や高校があったり、商業機能があったりだとか、住宅地には3万人弱ぐらいの住民がいて、野球場もコンベンション施設もあり、なかなかこれだけの資源が集まっているまちはないと思っています。</p> <p>そこは協議会組織を作った上で、全体としてのまちの魅力を高めていく取組みが必要だと考えております。</p> |
| 菊地部会長 | <p>資料2の1ページ目、客観指標No. 88建物の延焼率について。</p> <p>ダウントレンドになっており、延焼率は低ければいいものと理解しますが、平成29年末値は6.4%、令和2年度目標値は9.3%、実績値は10.9%で概ね達成となっています。</p> <p>説明では、毎年変動するので3か年平均をとってここ数年延焼率が高かったとのことで、平成29年と比較をすると令和2年は増えてしまっているが、それをクリアしない場合でもぎりぎり達成率80%以内で概ね達成となっています。</p> <p>ダウントレンド指標の書きぶりが難しいですが、記載について検討いただきたいです。</p> |

議題（3）その他

（事務局）今後のスケジュール及び議事録の確定方法について、事務局より説明した。

—閉会—